

いつまでも若々しく、そして輝いて

60歳代グランプリ 玉木恵美子

ミセス日本グランプリ
第6回ミセス日本グランプリ受賞者の手記

<http://www.mrs-nippon-grandprix.com>





60歳代ミセス日本
グランプリ受賞

はじめに

私は、このたび第6回ミセス日本グランプリ大会において、六十歳代のグランプリをいただくことが出来ました。

まさか、六十歳代の部門が出来るとは、昔は考えられないことでした。しかし、現在は、超高齢化社会ですから、六十歳を過ぎても元気な女性が沢山います。今後益々歳を重ねた女性が活躍できる社会が必要とされるでしょう。そのような中、初代の六十歳代グランプリをいただき大変光栄におもっております。

今、世界は長寿国日本に注目しています。

人口減少社会になって豊かな日本を取り戻す為には、女性の力が必要です。益々、日本のミセスが輝いて、そして、仕事に、人生にと真摯に向き合うことが求められます。自分の役割をしっかり受け止めて、仕事に、子育てに、そして主婦として、さらに、家族の介護も、これからは必要とされるでしょう。しなやかに、そして自分らしく美しく年を重ねたいものだと思います。

私は、福祉の仕事をしております。ケアマネージャーの事務所を構え、ヘルパー事業所も併設しております。私自身、ケアマネージャーとしても、現場に出しております。

毎日、高齢者と向き合い、女性はどのような生き方をすれば美しく年を重ねられるのだろうか、自問自答をしながら仕事をしております。

仕事を通して私なりにわかった事があります。

それは、おしゃれをしている女性は、若々しく見え、そして長生きしますね。

性格がチャーミングな女性は皆様から好かれて大事にされますね。

我が強い人は、どういうわけか、家族の人間関係が、ギクシヤクしています。自分の意見ばかり通そうとするものですから、施設に入っても、何故か周りの人となじめず、施設の職員がいくら話しかけても、受け入れない硬さを持っておりますね。そのような高齢者を見るにつけて、「もっと気持ちを楽しんで、生きようよ。」と、寄り添いたくなりま

す。

しかし最後には、人間力に勝るものはないと、思うようになりました。皆様の心に残るような生き方をしたいと思っております。人間品格が大切ですね。気取らず、飾らず、己に厳しく、人に優しく出来るような、そんな心の広い年の取り方ができる様な女性になりたいと、思っております。

それから、もう一つ、私なりにわかった事があります。

人を感動させられる人間は、人の何倍も苦しみ、人生を精一杯生きてこられた方だと思います。苦しんだ分、人の痛みが解ります。人にやさしくなれます。苦しんだ分、人生を深く考える力がつきます。人間力がつきます。生きる強さが生まれます。

楽しい事も、苦しい事も沢山あるのが生きているという事です。私は、苦しいときほど、他人のせいにすることなく、自分を反省して生きてきました。苦しいときには、苦しさを味わい、じつところらえて、いつかこの苦しみが自分の糧となりますようにと願いました。今では、不思議です、今まで生きてきた事すべて意味のあることでした。無駄なんてない。すべて私の宝だと受け入れられるようになりました。

幼少期



母親に抱かれて、
父親は、カメラマン

私は、昭和二十八年十月九日、福島県会津の総合病院で産声を上げました。両親は、県職員です。最初、母が事務職として勤めていました。そこへ、教員を辞めた父親が、ギターを片手に持ち、髪型は、オールバック、少し前髪を数本たらし、ロングコートを着て、ドアを開け、真っ先に、受付の母親に新人の挨拶をしたそうです。当時、女性は少なく、どうやら母親の方が好きになったらしいです。間もなく二人は結婚して、私が生まれました。

母親は、出産と同時に、退職をしました。本当は仕事を続けたかったようで、大分悩んだと言っていました。しかし、あの当時、預ける所もなくやむなくの決心だったと聞かされました。それから四年後、今度は弟が生まれました。

今でも覚えていますが、朝、私が小学校へ行くこうとしたとき、お気に入りの、グリーンのスカートがないのです。

突然、弟が、「僕も、お姉ちゃんと一緒に学校へ行く。」と叫んで庭に出てきたのです。駄々をこねる弟をなだめてスカートを取り上げ、急いで小学校へ行った面白い思い出があります。姉弟仲は、良い方だと思います。その弟も、今では中学校の教頭です。父親でもあります。面白いですね。

小学校時代

私の小学校時代は、内気で、何事にも自信がなく、引っ込み思案で目立たない子供でした。それは、健康が影響したように思います。小学校から、中学校まで、喘息に苦しみ入院も致しました。小学校の運動会には、一度も出た事はありませんでした。貧血で倒れてしまうからです。喘息で発作が起きると食欲もなくなり、そんな時、どういうわけか、スルメをよく食べました。私の好物でした。あのころ甘いものは、とにかく嫌いでした。ケーキもお饅頭も食べられませんでした。(今では大好きです。) ガリガリに痩せて、まるで、悲劇の主人公のような気分でした。白馬の王子様が、きっと私を助けに来てくれるシーンを夢見る、つまり、乙女でした。

思春期

中学校へ行っても、相変わらず引っ込み思案の内気な性格は変わりませんでした。喘息は、小学校よりは大分よくなり、発作も少なくなりました。成績は、中くらい。良くも悪くもありません。目立つことが嫌いで、いつも誰かの後についてゆくような性格でした。そんな私が、高校受験のとき、ミッションスクールへ行きたいと思いました。単純なので

す。制服が素敵だった事。英語にあこがれていた事。キャンパスが素敵だった事。何とか合格しました。高校時代も、相変わらぬ目立たない、内気な性格でした。



中学 2 年 生、
前 列 左 か ら 2 人 目



高 校 2 年 生

卒業と同時に、私は仙台の短期大学英文科へ進学しました。

高校が茨城でしたので、ほとんどの人が、東京へ進学する中、私一人、仙台へ行ったの
でした。森の都の仙台にあこがれていたからです。担任の先生が東北大学出身の温厚な素
晴らしい先生でした。あだ名は、「熊」です。私の受験を応援してくださいました。

短期大学時代

いざ仙台へ、短期大学の寄宿舎に入りました。

門限は、夜の九時でした。その上、週に一回は、礼拝があり、外出禁止となりました。寄宿舎から学校へは、スクールバスが往復、お弁当を持たせられました。夜には、見回りの人が、カランカランと鈴を鳴らして夜回りをするのです。寄宿舎には、小公女セーラのミンチン女子のような舎監の人がいつも門限になると、怖い顔を試みておりました。私は一度、門限を遅刻しました。九時半になってしまったのです。理由は、ダンスパーティーで遊び遅くなったのでした。舎監の先生が、待ち構えており、みっちり説教をされました。次の日からは、一週間外出禁止でした。その上、寄宿舎のありとあらゆる所に、門限の遅刻をしたと、私の名前を張り出され大変でした。

少し大人になり、自由になり、羽目を外したかったです。

それともう一つ、仙台の寺院参りをよくやりました。日本文化が好きだったからです。私は、自分で和洋折衷型だと思います。日本文化が好き、しかし、英語も好きです。

私が習った日本文化は、書道・茶道・華道・琴・日本舞踊です。しかし、どれも長続きはせず。唯一、日本舞踊の名取になりました。

今ではそれも辞めております。

学生時代は、初めて親元から離れ、自由でした。どちらかというところ、母親は、独占欲が強いほうで、自分の意見を言えませんでした。逆らう事は、悪い事のように思え、すべて私は母親のコピーのように生きてきたように思います。父親は、仕事が忙しく、あまり家庭を顧みませんでした。短大を卒業して、少ししたら結婚でもしよう。あの当時、周りがそうだったから、私もそのように自然と思っておりました。



35歳、名取時代

社会人となる

卒業後、ある建設会社の秘書課に勤務いたしました。しかし、しばらくして、私は重い肺炎となり、入院する事になりました。私の気持ちは空しくなり、急遽、福島へ転院、折角就職した会社を辞めることとなりました。

その後、どうして良いかわからずふさいでいると、新聞に、福島で開催する、日本カメラショーのコンパニオン募集と新聞広告を見つけました。ためしに、応募したら、コンパニオンに採用されました。そこで一週間、コンパニオンとして、カメラショーのマスコミトガールと、モデルも経験しました。

不思議なものです。その後、新聞社の方から、「ミス・ユニバースの応募をしてみませんか」と誘いがありました。以前の内気な私でしたが、少し自信が持てたのです。

応募した結果、福島県で准ミス・ユニバースになる事が出来ました。その後、テレビのコマーシャル・写真モデル等経験しました。それと同時に、英語塾の講師も始めました。

あのころは、今でも思い出しますが、自分が一番美しく輝いていて、そして、一番おろかなときでした。皆様にチャホヤされていていい気になっていたのですね。



23歳、カメラショー
コンパニオン時代、一番
左端

初めての挫折・結婚と離婚・二十八歳

どうしても、熱烈に追い回す人がいて、生意気なようでしたが、根負けして結婚いたしました。しかし、その人は、結婚したら、すぐ浮気を始めました。そして、私に、暴力も振るうようになりました。家にも帰ってきませんでした。最初私は知らなかったのです。

しかし、友人に相談したら、それは浮気だとわかりました。あんなに慕われていると思
い結婚したのに、情けなくなりました。結婚一年目です。彼が出張と言いつ帰らない中、ギ
リギリまで、仕事をしながら、一人で子供を産みました。その後、浮気相手に、会いに行
きました。相手は、私のことを知らない様子でしたが、私は現実を直視しました。自分か
ら何も言わず、何の要求もなく別れる決心をしました。しかし、離婚となると、どうい
うわけか、同意をしてくれませんでした。やむなく、裁判までもつれ込みました。

裁判所に行った日を思い出します。窓越しに行きかう人を眺めながら、何気ない日常生
活の素晴らしさを、うらやましく思いました。私は、最悪の裁判所の中で。その後やっと、
半年後、離婚が成立しました。私の要求は、子供の養育権だけです。お金も何も要求しま
せませんでした。彼のお金は、すべて何もかも欲しく無かったです。着の身着のまま逃げ
てきました。ですから、私には、幼いころのアルバムがほとんど無いのです。そのまま逃
げてきたのですから。もってきたのは、子供のおもちや一つでした。やっと自由になった
時、思ったことは、どうして空がこんなに青いのかという事。生きている事は素晴らしい
と思えました。すべてがキラキラと輝いて見えました。

しかし、数年間、私は、少しでも、彼の面影に、似ている人に会うと、どうい
うわけか、怖くなり、逃げるようになりました。きっと暴力の後遺症でしょね。ある日、又面影が似
ている人に出会った時、私は、勇気を出してじっと見返してみました。案の定、別人でし

た。その後、逃げることはなくなりました。自分の体調も崩し、健康な心と体になるまで、数年かかりました。その間、自分は、どうして生きてゆくべきか真剣に考えました。二度と同じ過ちは繰り返したくないという思いが強かったのです。あのころの自分は、人任せ、自分というものが無かったことに気がつきました。結婚だって、昔の人はよく言ったものです。「女の人は、好かれて嫁に行ったほうが幸せですよ。」と、それは、時と場合です。まず、自分が自立・自律していなければ人間として生きられないと思いました。

今までの人生を振り返る大変良い機会を与えてくれたのだと捉えました。もう結婚にとられることなく真剣に自分の足で生きてみようと決心しました。

何か、卵の殻がパリンと割れる様な、何でも挑戦してみようと思いました。チャホヤしいいい気になっていた自分が、一気に奈落の底に落とされたような思いもしました。周りの人達が興味津々に私を見ていました。

しかし、いいのです。私は、確かにボロキレのようにみつももないかもしれない、でも、今に見てらっしゃい、パッチワークの様に布をあわせて、今に素晴らしい人生を歩んで見せると誓いました。

私に何ができるのかと考えたたら、何もできない自分に愕然としました。女が一生一人で生きてゆくには、何か技術を持たなくてはいけないと思いました。そこで、准看護師を受験しました。そこで、私は、高校生と一緒に混じり、子供を母親に見てもらい、勉強しました。長い髪をおさげにして、自転車で学校へ通いました。

真剣に学ぼうち、今までいかに勉学に不真面目だったか、自分を反省しました。ある授業を受けていた時、勉学は、「生きる為にあり。」と、急に、私なりに、脳裏に閃いたのです。何故自分は、今まで勉学を怠り真剣に生きられなかったのかと思ひ、授業を受けながら、涙がこぼれるのを抑える事が出来ませんでした。今でも忘れる事は出来ません。その後、学校の推薦もあり、総合病院へ就職しました。

初めての白衣嬉しかったです。これで、たとえ一人でも生きていかれると思ひました。手術室・集中治療室・病棟と勤務いたしました。昔小さいころ、注射が怖くて看護師は嫌でしたが、今では、注射が得意な看護師、そして、患者様にも好かれるようになっておりました。その間、相変わらず子供は、母親にまかせてばかり。夜勤もありましたから、子供は母親と寝る事が多くなりました。段々、子供との距離ができる様になり苦しみました。

もう私も四十歳に近い。本当に愛する人と結ばれたいと思うようにもなりました。時々、遊園地で、夫婦で子供を連れて遊んでいる人を見ると、たまらなく羨ましく思いました。私は、一度も、夫婦で子供を連れて遊んだ経験が無いのです。

「私だって幸せになりたい。」

「今なら、まだ愛する人の子供を産めると、心の叫びでした。」

私は、結婚が怖かった。しかし、本当は、結婚して幸せになりたかった。自分の心の叫びに耳を傾けると、涙が出ました。



33歳、看護師時代

やっと出会えた！

主人と初めて会ったのは、お見合いでした。私が三十八歳のとき。

初めてのお見合い、私は、警戒して、今ではお笑いですが、わざとどうでもいいような変な格好をして、化粧もほとんどしてなく、髪は、ぼさぼさで行きました。内面をよく見てくださいました。私は、その時勉強に通っていた図書館と、そこに併設してある喫茶店へ案内しました。私の生き方をみて欲しかったのです。そこで、人間としての生きかた、考え方を話しました。

主人は、何事も前向きに考え、裏表がなく、とても誠実な方、何よりも、このような私を受け入れて支えてくださる心の広い人でした。

私の求めていた人は、この人だと直感しました。結婚したいと初めて思える人に出会いました。最高に嬉しかったです。

「やっと出会えた！」

二回目のデートに、私は、思い切り、綺麗に装いました。主人の前へ近づいたら、主人は反応が無く、私が、「玉木さん！」と、呼んだら始めて私だと解り、ビックリしていま



40歳直前に結婚

した。主人いわく、後で「綺麗な人だったのでですね。」といわれました。素直に、愛する人と言われて嬉しかったです。出会ってから、四カ月後に結婚しました。

主人に、プロポーズされて天にも昇るようでした。その日、家に帰り、一人で、

「バンザイ！」と、叫んでしまいました。

その後、急に力が抜けて、一週間くらい寝込んでしまいました。

どんなにか、私は力を張って生きていたかですよね。

私から主人への、結婚の条件は、（今まで、ずっと一人で働いて生きてきたので、）

「私は、主婦をやりたい。夫婦で子供を連れて遊園地に連れて行って欲しい！」
この二つでした。

主人は、見事に守ってくれました。

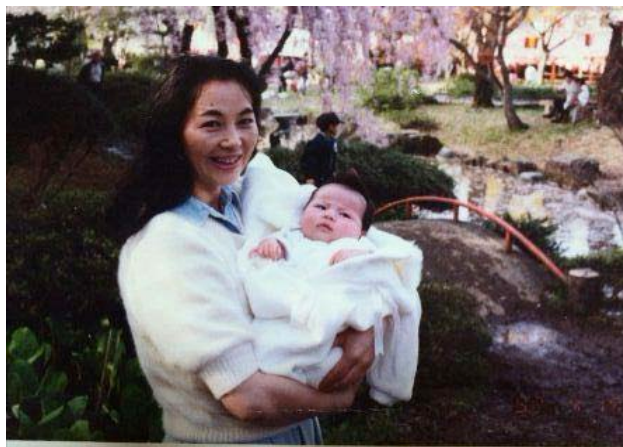


やっと

幸せになれた喜びが・・・



結婚をして、念願の主婦となり、一年後には女の子も授かりました



4 1歳、女の子を出産。春でした。
生まれたばかりの赤ちゃんを連れてお花見



念願の、遊園地へ

私の連れ子も連れて、遊園地へと、毎年、夏休み・春休み・冬休みにと、沢山連れて行ってくれました。写真も沢山撮ってもらいました。幸せになればなるほど、人間は、過去の恨みを忘れますね。もし、辛い事を忘れる薬があるとしたら、それは、幸せになる事ですね。

幼稚園の弁当も、冷凍食品を使わず、全て、手作り。お誕生日のケーキ、クリスマスのケーキも全て手作り。もちろんおせち料理も手作り。

幼稚園から、塾や、習い事へ通わせ、送り迎えも大変です。私自身も子供と一緒に習い事へせっせと通い、沢山やりました。もともと、習い事が大好きでしたから。それを見て主人が、「そんなに習い事ばかりしていないで、今度は働く事を考えたら。」と、言われました。

私も、うすうすこんな事ばかりしていちやいけないなと、考えていたところでした。実は、幼稚園の、主婦仲間から、「玉木さんって、有閑マダムじゃない！」と、いわれた事があるのです。私は、その言葉が、あまり好きじゃありませんでした。もつと人の役に立てるような人間でありたい。しかし、十年間の主婦で世間に置いてきぼりされて臆病になっていたのです。どうして、働いていいのかが解らなかつたのです。挙句の果てに、主人へ、泣きながら、「私と離婚したいから、そんな酷いことを言うのね。」と、喧嘩になりましたが、主人は、いたって子供（私）が、ワーワー騒いでいるとしか見ていなかったようです。それよりも、この子（私）は、家でじっとしてられるような子（私）で無いなと、考えていたそうです。

そんな時、主人の経営する会社で、ホームヘルパー二級養成講座をやる事になりました。主人の会社は、美容総合の卸業です。美容師の方々のために、開講を考えたそうです。そ

ここで私は、主人に無理やり頼まれ、医学を担当する事になりました。講義をしたら、昔の、感が甦って来たのです。講義が楽しくなりました。

しかし、私自身、ホームヘルパーとは、どんな仕事かさっぱりわからない状態で、実態がわからなかったのです。そんな時、友人が、私にビデオを見せてくださいました。それを見て大変な仕事だと、私にはとうてい無理だとも思いました。しかし、仕事への責任があります。早速、他事業所のホームヘルパー養成講座へ申し込み、うけることにしました。

講義も受け、実習にも行き、ホームヘルパーもやりました。

そこで、おもしろいことが起こりました。同じ受講生仲間が、ケアマネージャーという資格は、なかなか難しいらしく一度や二度落ちるのはあたりまえらしいと、話しているのを小耳に挟みました。何かを求めていた私に火がつかしました。ヨーシ！挑戦してみよう！

新たな挑戦

早速インターネットで検索、その後、県へ問合せ受験用紙を取り寄せました。しかし、準備期間も無いままの受験、見事に失敗しました。今度は、練り直しました。まず福祉も解らない。介護保険も解らない。現場も解らない。多少知っているのは、昔かじった医学

だけ。今でもケアマネージャーの試験はそうですが、医学分野・介護保険の解釈分野・福祉分野と三科目があり、どれも一定水準を満たさないと合格しません。その落ちた日から、五十歳を目前に猛勉強が始まりました。

テキストの丸暗記です。絶対何が何でも合格する！新たななる挑戦を始めました。そして、合格しました。

しかし困った事に、合格しても、どこで働いてよいのかわからないありさま。自分も働く事がまだまだ不安でした。そんな時仲間が、訪問入浴で看護師が足りないから手伝ってと、誘われました。週三日の勤務ということでやっと重い腰を上げる事にしました。その後、ケアマネージャーをして欲しいと同事業所で誘われ、パートの半日の仕事で勤務いたしました。しかし、ケアマネージャーは、激務です。私は、今まで無縁の世界にいたものですから、笑っちゃいますが、ファックスの使い方、パソコンの使い方、全然解らないのです。外にでるときには、紫外線を気にしてクリームをぬり、美容にも気を使う、マダムみたいな変なケアマネージャーだったのでしよう。

いじめに合いました。はじめ私は、感が鈍いもので、いじめにあっているのも解らず苦しんでいたら、同事業所のヘルパーの皆様が、玉木さんが可哀想だと、上司に言ってくれたのです。そこで初めて、アー私って、はたから見て可哀想なほどいじめられているのだなと思いました。

そんな時、訪問介護養成講座講師求人を見つけました。以前、主人の会社で講師をしていたので、もう一度やりたいと思い早速応募し、非常勤講師として採用になり、会社は辞めることにしました。

そして、ケアマネージャーの仕事もこれで辞めようと思いましたが。しかし、よく考えると、会社の人間関係は嫌いでしたが、仕事としては好きでした。いつも高齢者の皆様が私を応援し、支えてくださっていたのです。やりがいを感じていた時でした。さらに、講義をするにあたり現場を知らないと生きた講義が出来ないのではないだろうかとも思えてきました。そんな時、他の事業者から、ケアマネージャーのお誘いがあり、又、パートではあるが、再就職が出来、その後そこで三年程、勤務をさせていただきました。

独立の道へ、五十歳にてケアマネージャー事務所設立

仕事をしながら、私は、こんな事を考えていました。今のこの仕事は好きだということ。一度も嫌いと思った事は無かった。むしろ高齢者の皆様が私の応援をしてくださった事。私は、自分の尊敬できる上司にめぐり合いたい。

そこで、百パーセントの力を出したい。五十を過ぎ、もう迷っている時間は無いこと。

自分が生きてきた過去にこそ答えがあるなど。悶々と考えていました。考えた挙句、とうとう一生の仕事にしようと、独立を決心しました。ケアマネージャー事務所を立ち上げよう！

尊敬できる上司がいなければ自分が尊敬できる上司なろう！自分がやられて嫌な事は、他人にはしない事を基準にしよう！

良い経営者を目指そう！どうせやるなら、新潟で一番の事務所を目指そう！

パートの勤務でしたので、管理業務中枢の仕事は全然わかりませんでした。一人で何も分からない不安だらけでした。しかし、それよりも、立ち上げる情熱だけは、誰にも負けませんでした。

一生懸命、命がけで事に当たっていると、不思議ですね、誰かの応援があるのです。ゼロからの出発、たった一人からの出発でした。分からない事は、わかるまで県や市役所に聞きました。恥も沢山かきました。今までどんな仕事でも断った事はございません。私の所へきてくださりありがとうございますと、感謝をして仕事をさせてい



会社でスタッフと一緒に

ただいております。そんな中、段々高齢者の利用者が増えてゆき、それに伴いケアマネージャーの人数も増えてきました。そこで、また、新たななる挑戦が生まれたのです。

ヘルパー事業所設立 五十三歳

今度は、ヘルパー事業所を立ち上げよう。決心したのは、より蜜の濃い在宅のサービスを提供しなかったからです。ケアマネージャーと組めるヘルパー事業所を育てたかったからです。おかげさまで現在、ヘルパー事業所も段々と軌道に乗り始めております。

会社の名前をつけるとき、私の大好きな漢字を入れました。それは、夢です。夢が持てる会社。皆で夢が語れる会社。地域の皆様に夢をお届けできる会社。その他にも私は好きな漢字があります。それは、愛・美です。ちなみに、二人の娘には、私の大好きな字をつけました。

わが会社は今年で八年目を迎える事が出来ました。お客様の困っている事は、現場でしか解らない。今後も私は、現場を大切に、してゆきます。

ダーウインは、「変化に対応した会社が生き残った。」つまり、自立型社員を育て、科学性を持った経営をする事です。肝に銘じ、今後も、変化を恐れずこれからも進化をしたと考え、現在、経営者仲間と勉強をしております。

最後に、

主人と家庭を持てた幸せ

主人はいつも私を、広く受け止め、そして見守ってくれます。

今でも、結婚した時のように大事にしてくれます。本当に結婚できて良かった。良くぞ私を待っていてくださったと思います。主人に出会えたことが私のラッキーでした。子供たちには、私は、間違っても主人の悪口は言いません。子供たちは、私達夫婦が凄く仲が良いことをはたから見えてヤキモチをやきながら喜んでいきます。

こんなことを娘達が言いました。

「パパは、なんとと言っても、ママが一番好きなんだよね。」

「結婚っていいね。」

人生最後までわかりませんよ！

ミセスグランプリに挑戦して思った事

六十歳になって挑戦をする事で私は、人生のリセットになりました。と言う力が湧いてきました。それに、

美しく装う事で、若々しく思え、人生がより楽しくなりました。それから、他県の活躍しているミセスの方たちとの交流も、とても刺激になりました。

人生に出会える人はほんのわずかです、ですから、自分から臆病にならず、私は、どんどん交流をしたいと思うようになりました。必ず、共感できる人ためぐり合えるはずです。

まず、私にできる事は、地方から元気をあげて、日本全体を元気なミセスでいっぱいになりたい。

グローバルにさらに考えると、世界のミセスの方々とも交流をしたいと思うようになりました。



挑戦する事は、最初、しんどいですが、新たなエネルギーが生まれますよ。
このような私でも何とかやれたのです。
ミセスの皆様、一緒に挑戦をしませんか？
最後までお読み下さり皆様に感謝を申し上げます。
ありがとうございます。

玉木恵美子